

## 平成30年度 第2回 地域連携による活力ある高校づくり推進協議会 議事要旨

日 時	平成31年2月8日(金) 13:30~15:40
場 所	飛騨市文化交流センター リハーサル室 及び 大ホール
出席者 (敬称略)	<p>布俣 正也 岐阜県議会議員  都竹 淳也 飛騨市長  沖畑 康子 飛騨市教育委員会 教育長  向川原眞郷 古川中学校長  田中 晶宏 ブライトスタッフ株式会社代表  岡山 正喜 アルプス薬品工業(株) 総務担当取締役  池田理佳子 八ツ三館女将  川上 佳洋 「夢のたまご塾」飛騨アカデミー理事長  松場 慎吾 旅ジョブ代表取締役  岩崎 道夫 吉城高校育友会長  石原 典子 学校評議員(民生委員・主任児童委員)  前川 隆子 学校評議員(主婦)  尾賀 眞平 学校評議員(尾賀書店)  田上 昌広 学校評議員(飛騨古川青年会議所理事長)  仲島 豊 学校評議員(卒業生の保護者)</p> <p>(学校関係者)  鈴木 健 吉城高等学校 学校長  大野 貴司 同 教頭  日野 利明 同 事務長  小原 誠 同 進路指導主事</p> <p>(県教育委員会)  秋場 毅 教育総務課 係長</p>
議事概要	<p>1 開会挨拶 岐阜県議会議員 布俣 正也 様  生徒のために尽力いただき感謝している。来年度からはじまる「学校運営協議会」により、吉城高校が地域に根ざした、地域と連携した、外からも中からも魅力溢れる高校なることを期待している。小規模・少人数だからこそできることがたくさんあるので、その特徴を活かし吉城高校が飛躍することを願っている。</p> <p>2 学校からの説明(資料に沿って、(1)及び(2)について説明)  資料1 吉城高校の活性化に関わる有識者会議及び各種指定事業(H28-H32)  資料2 H30年度 地域連携による活力ある高校づくり推進事業 実施報告  資料3 H31年度 入学生カリキュラム  資料4 H30年度 自己評価、学校関係者評価  ・学校経営計画(高等学校版マニフェスト)  ・項目別数値実績と目標  ・生徒、保護者アンケート  ・各領域・分野に対する学校関係者評価について(依頼文書・記入用紙)</p>

(1) これまでの取組と今後の進め方について（資料1～3）

<資料1>

○平成29年度

- ・「活力ある高校づくり推進協議会」で地域の方々の意見聴取

○平成30年度

- ・岐阜県初の高校における30人学級の設置
- ・高校生の地域参加を考え古川祭の日を学校休業日・柏葉祭の日曜日開催
- ・カリキュラム改編による選択コース増設
- ・創立70周年記念式典
- ・文部科学大臣表彰等の受賞

○平成31年度

- ・H31年度入学生から単位制への移行
- ・学校評議員会から学校運営協議会（コミュニティースクール）への設置変更
- ・H31年度まで地域連携による活力ある高校づくり推進協議会は継続
- ・施設設備面の充実（普通教室にエアコンを設置、教室棟のトイレを洋式化、プロジェクター・ホワイトボードの設置等）
- ・県指定事業、国指定事業の有効活用
- ・第3次岐阜県教育ビジョンの方向性

<資料2>

- ・平成30年度地域連携による活力ある学校づくり推進事業 実施報告

<資料3>

- ・平成31年度入学生カリキュラム

進学型単位制への移行に伴い、多様な選択科目を設定

（例）学校設定教科としてESDを設置し、地域課題探究（YCKプロジェクトリーダー活動）、国際理解探究（台湾研修）を各1単位として設定

(2) 自己評価と学校関係者評価について（資料4）

- ・平成30年度自己評価、学校関係者評価

学校経営計画（高等学校版マニフェスト）と項目別数値実績と目標

生徒、保護者アンケート結果

各領域・分野に対する学校関係者評価について（依頼及び記入・提出方法）

3 質疑応答

- ・先日飛騨市が開催した大正大学教授の浦崎先生の講話の中で「高大接続改革で大学入試が大きく変わり生徒の主体性等に関する評価の在り方を、吉城高校の先生方が検討されており非常に素晴らしい取組」と紹介された。具体的に教えていただきたい。

⇒現在、校内のワーキンググループで生徒の振返りや評価方法の検討を進めている段階である。文科省に採択された今年から2年間の実践研究テーマでもある。

4 「YCKプロジェクト報告会」参観

5 学校関係者評価について

学校に対する評価・意見等は後日提出していただいた。内容は以下のとおり。

(1) 学校経営について

<評価される点>

- ・吉城高校のよさは発信できている。
- ・内外とも着実に成果をあげている。さらに進化することを祈念している。

- ・協議会で出された意見が反映されており、地域の各関係者の要望等に真摯に耳を傾けていると感じた。柏葉祭の日曜開催と一般開放や古川祭当日の休日化等、地域への密着、連携を深める対策も進めておられ評価される点と考える。
- ・飛騨市未来づくり賞の受賞は素晴らしい。YCKプロジェクトについて、保護者だけでなく市民も活動を知ったことで応援・協力体制が広がった。
- ・行政（県・飛騨市）との連携は大きな力となる。
- ・YCKプロジェクトの活動が継続され、認知度も上がってきている。今後、さらに生徒による自主的活動へと発展させていただきたい。
- ・YCKに関わる運営には、校長先生を中心とする先生、生徒、地域の協働により、吉城高校の新しいイメージを作っていると思う。
- ・課外ではなく科目として位置付けられることで、より多くの生徒が参加でき「探求」する力が育つと思う。
- ・アンケート結果は、すべての課題において概ね満足のいく数字を示しており、先生をはじめ関係の方々の努力の成果だと感じる。特に地域に根付いた活動ということで、YCKの認知度も今年になって特に上がり、新聞にも度々掲載され、市民も取り巻くような発信ができていたのではと思う。
- ・様々な発想で具現化された学校運営は極めて先進的で刺激的であった。YCKの知名度アップによる地域の受け入れ体制もさることながら、生徒一人一人の課題発見、課題解決能力の伸長は目をみはるものがあり、教育の原点を垣間見る思いである。今後、単位制移行やYCK等の単位認定、評価等、更なる検討が重ねられ、さらに魅力ある学校経営が行われることを期待したい。

<改善すべき点>

- ・YCKプロジェクトにおいて、視野や活動範囲を拡大していけるとよい。
- ・取組の成果が年々向上していると地域にいて感じる。報道も増えているが、さらに力を入れていただくとよさが伝わると思う。
- ・理数教育フラッグシップハイスクールは、方向性が中学校に伝わっていないと感じる。

<その他>

- ・保護者の評価の検証が必要である。
- ・教員の異動に左右されない経営を望む。

(2) 教科指導について

<評価される点>

- ・教科によって少人数・コース別授業があり、学びやすく、落ち着いた様子を見せていただいた。生徒のアンケート結果では肯定的な意見が多く、学力向上につながればと思う。
- ・新入生のカリキュラムは個性を伸ばすものと大きな期待を感じている。
- ・どのクラスも生徒も真剣に取り組んでいる姿に驚いた。生徒が志望する進学や就職ができることが、教科指導力を測る一つの指標になる気がする。
- ・アクティブラーニングを通して生徒一人一人が自らを理解し、自身に何が必要か、何が得意かを知り、学ぶモードに移行していく姿は素晴らしい。
- ・生徒の家庭学習時間が増加しているのは、先生方の継続的な働きかけがあったのだろうと感じる。

<改善すべき点>

- ・ICTの活用を積極的に行うべきである。
- ・進路は様々だが、社会に出てから学生時代学んだことをどう活かすか。卒業後のライフプランの構築や働くことの意義なども学習できるとよい。

- ・総合的な学習の時間は、開講される内容によっても賛否両論と思われる。総合学習のねらいの原点に立ち戻り検討してはどうか。吉城高校へ入学する生徒のほぼ全員が、地域の小中学校の卒業生であることから、小中高の教員間の連携、合同研修等広く情報交換の場をもつとよい。
- ・第1回協議会でも述べたように、日々の教科の授業で、課題解決学習や対話的な学びを大切にすることで力がつくと考える。

<その他>

- ・生徒の満足度をA評価へ。
- ・タブレットの使用により、書く能力や調べる能力が疎かになることを心配する。
- ・単位制の経過を見て判断したい。
- ・ICT環境が早く完備されるとよい。
- ・中学でも主体的な学びについては、長く課題として取り組んでいるため、中・高の教員が協働して実施することはできないものだろうか。

(3) 生徒指導について

<評価される点>

- ・服装の乱れや行動の乱れはあまり目につかない。
- ・身だしなみは整っており、挨拶もしっかりしている。
- ・いじめ防止等対策検討会議に出席しているが、いじめなど問題が起きたとき、情報交換など連携し適切な指導がなされている。
- ・登下校時の挨拶は清々しく、このまま育ってほしいことを願う。
- ・いじめやSNSに関する問題もいろいろな検討会議や委員会を立ち上げ、常に子どもたちの行動、発言に目を向けた取組をしているという認識がある。

<改善すべき点>

- ・スマホの使用の指導は必要である。スマホ使用を否定するのではなく、適切な使用（活用）を推進すべきである。
- ・昨今のスマホなどによるSNS含めた社会の闇の部分で、犯罪に巻き込まれた児童生徒の事件は目を覆うものがある。今後、校則に関わる生徒心得について見直しや再考を要するのではないだろうか。
- ・生徒の多くが大変素直で挨拶をきちんとしてくれるが、卒業式の身だしなみは気になる。返事や校歌を歌う姿と大きなギャップを感じてしまう。

<その他>

- ・MSリーダーズの活動を応援したい。
- ・様々な情報が氾濫する中で、騙されたり惑わされたりしないようになればよいと思う。仲間意識を共有することで、いじめや迷惑行為は改善できると思う。
- ・生徒や保護者を対象とした学校評価の数値から、いじめについては、これまでと同様きめ細かな目で対処していただくことを願っている。
- ・昨今、残念ながら児童生徒の痛ましい自死や虐待がプレスを賑わしている。教育相談機能の更なる強化をお願いしたい。

(4) 進路指導について

<評価される点>

- ・高校生で将来を決めることは難しいが、将来につながることは、指導や体験させてあげられると思う。「大人と語ろう会」はよい経験だと思う。
- ・卒業生の進路は、四大、短大、専門学校、就職と大変多岐に渡っている。生徒個々の目標によく対応させている結果だと感じる。
- ・土曜講座（吉城ゼミ・補習）など、学校独自の支援が行われている。また、進路情報がHPで更新されていてよくわかる。

- ・総合学習の時間の「大人と語ろう会」などは、将来を考えるよい機会であった。
- ・吉城高校の将来は、キャリア教育の推進がキーワードではないだろうか。高校生の時期は、地域社会について考え、一方では地域と距離感を保ちグローバルな視点をもって、自らの生き方や在り方を見つめさせることが、吉城高校ならではの進路指導ではないだろうか。

<改善すべき点>

- ・保護者への理解が徹底していない部分があるといけない。
- ・自分の個性や能力をどう活かせばよいのかわからない世代だと思う。動機付け、方向付けのサポートをお願いしたい。
- ・吉城高校における大学進学の特徴を明確に打ち出せるとよい。
- ・進路決定において、生々しい情報（例えば職業による報酬の違い、待遇、地位）も示す必要があるのではなか。
- ・本年度の課題では「考えられない生徒が増えてきた」とある。総合的な学習の時間の取組などが、生徒が主体的に進路を決定する力に結びついているのか、検証していく必要がある。

<その他>

- ・進路目標の設定時期の検証が必要である（早い時期がはたして適当か。）。
- ・将来像を思い描けない生徒が増えてきているようなので、学校生活や社会生活の中でうまく現実と向き合えるような取組ができるとよい。

(5) 特別活動について

<評価される点>

- ・柏葉祭の一般開放により、生徒たちの意欲が出て活発化しているが、すべての生徒ではなく、一部の生徒だけと思われることもある。
- ・写真部が作成している「キラメキ写真館」は生徒の日々の活動を垣間見ることができ毎回楽しみにしている。
- ・柏葉祭の来場者に、小・中学生や卒業生など若い方が増えている。展示内容も地学部の「今年のテーマは何かな…」など工夫があり高校生らしさを感じた。
- ・70周年記念式典やYCK活動発表など、生徒が積極的に運営している姿が素晴らしい。
- ・柏葉祭の取組などの生徒会行事を通して、団結力・協調性が育まれる。
- ・日曜日の公開はよいと思う。
- ・部活動、生徒会活動、YCK、柏葉祭などの写真や紙面を見て、子どもたちの達成感が伝わってきた。部活動の活躍は、学校自体が脚光を浴び、魅力の一つになるのではないかと思った。
- ・生徒たちの発表の場、自己実現の場、達成感を自ら感じる場が、地域の学校の大きな使命ではないだろうか。

<改善すべき点>

- ・特に生徒会活動の活性化を望む。
- ・全てにおいて自発的な活動が望まれる。

(6) キャリア教育の推進について

<評価される点>

- ・市との連携はとてありがたく活動が充実していると思う。
- ・YCKプロジェクトは、内容的にも年々充実が図られているおり、地域の方の認知度も当初より著しく高まっている。非常によい方向へ進んでいる。
- ・YCKプロジェクトが、単位制への移行において、単位として認められる方向であることも、活動が一層活性化することに繋がると考える。

- ・YCK報告会で、一段と成長した姿を見せていただいた。生徒の報告後、協力してくださった方々の講評を聞くことができよかった。中学生の参加もあり、中学生が興味をもってくれればと思う。
- ・YCKプロジェクトの三寺まいりでは、堂々として説明していた。身近なことを題材に活動することは意義深い。
- ・YCKの取組は、問題を発見する力や解決していく力になっていくと思った。
- ・YCK活動により地域を巻き込むことがよい。
- ・生徒が地域の大人と関わり、貢献できたことの喜びが、子どもの将来に大きく影響するものと思う。

<改善すべき点>

- ・YCKプロジェクトは全生徒2ミッション以上の参加が望ましい。
- ・1年生と2年生は、全員が関われるものがあるとよいのではないか。
- ・リーダー研修に参加することが入試や就職に有利に働くように、学校が進めていかなければならないと思う。
- ・吉城高校のYCK活動など様々な取組を、システムテックに整理してはどうか。検証し、再構築して、更なる発展を図ることも可能である。

<その他>

- ・コーディネーターや生徒は地元出身で、地域ともなじみがあるが、先生は転勤などもあり、なかなか地元とのコミュニケーションも取りにくいと思う。任地により校風も違う中大変だが頑張っていたきたい。

(7) 健康安全教育について

<評価される点>

防災教育の充実

- ・総合学習での「災害図上訓練」は大切なことである。災害時の備蓄品もすでに整備されていることを知り安心した。
- ・日頃の危機管理意識の啓発や訓練の実践に感謝したい。

<改善すべき点>

- ・食生活の改善（サプリメントの有効な使用方法についての指導）。
- ・生徒への訓練は不可欠だと思うが、先生方の誘導次第で危険度がかなり変わるので、一番に訓練しなければならないのは先生方である。
- ・施設面も、生徒を集める要素の一つであるため、引き続き清潔感のある校内づくりは必要だと思う。

<その他>

- ・マナーに関しては高校以前の指導だと思う。小・中学校でしっかり身に付けてほしく、高校からは防災などワンランク上の取組を身に付けてほしい。
- ・社会に出てからも健康第一である。また、職場では安全にまさるものはない。健康で安全な生活への意識付けをさらにお願したい。
- ・登下校時、吉城坂の交通事故が懸念されるが問題はないか。生徒にとって吉城坂は「思考の道」なのだと思うが注意が必要である。